

リハビリテーション学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
3	8	理学療法研究法
3	13	地域理学療法学演習
3	14、30	保健医療福祉連携論(PT・OT)
3	15、16	専門支持科目特別演習 (PT)
3	17、18	専門展開科目特別演習 (PT)
3	24	作業療法管理学演習
3	26	臨床作業療法演習Ⅲ
3	31、32	専門支持科目特別演習 (OT)
3	33、34	専門展開科目特別演習 (OT)

学修成果						科目ナンバリング							
1基礎力2実践力3人間関係力4生涯学習力5地域理解力						RP-2-BPT-03							
科目名		理学療法研究法				単位 認定者	網本 和		評価の方法	授業内課題 (発表会)		30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T		必修	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		試験（筆記）		50 %	
							授業時間数	30 時間		受講態度		20 %	
					授業形態	講義	授業回数	15 回					
授業の概要		理学療法が科学として体系化され、より成熟したものになるためには、科学的根拠に基づいた理学療法の展開・実践が必要である。 理学療法研究法では、理学療法における科学の重要性について理解し、研究を実践するうえで必要な基本的知識と研究方法について学修する。											
到達目標		1. 理学療法研究の必要性を理解し、研究の意義や目的を説明できる。 2. 研究デザインや、基本的な研究の手順を説明できる。 3. 基本的な統計学を理解し、研究法に合わせた統計手法を選択できる。 4. 文献抄読を通して論理的思考力を身につけることができる。											
学修者への期待等		日進月歩する医療において、対象者に最適な理学療法を提供するためには、自らの知識技術が最新かつ安全なものであるかについて不断の検証が求められます。 そのためには浩瀚な先行研究の理解と、実践する理学療法効果の検証が必要です。 このような課題を解決するため「研究法」の基礎を修得して臨床に役立てていただきたいと思います。											
回		授業計画					準備学修					担当	
1		理学療法と研究、研究の意義・目的					「研究法」に関するテキストまたは文献を事前に学修する（60分程度）					網本 和 小松 佳路	
2		根拠に基づく理学療法（EBPT）及び研究テーマの設定 診療ガイドラインの活用、ナラティブに基づく実践										網本 和 小松 佳路	
3		研究デザインの基礎知識										網本 和 小松 佳路	
4		研究論文（文献）検索と論文の読み方										網本 和 小松 佳路	
5		対象の決め方・データのとり方 記述統計学①（平均値、中央値）										網本 和 小松 佳路	
6		対象の決め方・データのとり方 記述統計学②（標準偏差）										網本 和 小松 佳路	
7		研究データの解析 推計統計学①（パラメトリック検定）										網本 和 小松 佳路	
8		研究データの解析 推計統計学②（ノンパラメトリック検定）										網本 和 小松 佳路	
9		研究の実践例提示と討論										網本 和 小松 佳路 金谷 さとみ 小関 友記 佐々木 広人 荒牧 隼浩	
10		研究データの解析 推計統計学③（相関分析、回帰分析）										網本 和 小松 佳路	
11		医療統計（妥当性・信頼性、感度・特異度、尤度比）										網本 和 小松 佳路	
12		研究計画の立て方と研究倫理										網本 和 小松 佳路	
13		症例研究										網本 和 小松 佳路	
14		文献発表会と討論①（基礎研究）										網本 和 小松 佳路 金谷 さとみ 小関 友記 佐々木 広人 荒牧 隼浩	
15		文献発表会と討論②（臨床研究）										網本 和 小松 佳路 金谷 さとみ 小関 友記 佐々木 広人 荒牧 隼浩	
教科書		指定しない											
参考文献		『理学療法NAVI 臨床の疑問を研究に変える 臨床研究First Stage』網本和・他著、医学書院 『標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法』内山靖編、医学書院											
備考		P T A B 合同授業 文献発表会を授業内課題として行い、その場でフィードバックを行う。											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
網本和：大学病院にて20年以上の臨床経験を有し、その間臨床研究について多数の学会発表、論文作成を行ってきた。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-02				
		●	●	●	●					
科目名	地域理学療法学演習				単位認定者	森永 雄		評価の方法	授業内課題 (レポート①)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題 (レポート②)	50 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	地域理学療法学で学修した知識を基に、在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援について学修する。本講義では、事例を通して、相談支援、訪問理学療法・通所サービス、住宅改修、車椅子や日常生活用具等の福祉用具などについての知識を深め、地域における理学療法士としての実践力を養う。また、介護予防、認知症予防や転倒予防などの運動および各評価についての理論を学び実践する。									
到達目標	【実践力】シミュレーションを通して、地域理学療法の企画力と集団に対する実践力を高める。 【人間関係力】他者の考えや対象者の立場を理解し、課題解決に向けた協調的な支援行動を図れる。 チームで生じている対立に気づき、自ら調整するよう働きかけることができる。 【生涯学習力】考えを「引き出す」から「創り出す」学習の一步を踏み出すことができる。 自助・互助の果たす役割を自覚し、課題解決に向けて能動的な学習行動を図れる。 【地域理解力】現場体験談を傾聴し、実社会の問題を推し量る能力を高めることができる。									
学修者への期待等	・実技実演では動きやすい格好を心がけ、チーム活動では活発な討論ができるよう整えてください。 ・現場体験談を傾聴する際は、授業計画テーマの事前学修（予習）に努めてください。 ・本選発表では、聴講者の興味関心が高まるような創意工夫を期待します。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	地域高齢者の理解と評価・リスクマネジメント 【反転授業、クラス合同】					UNIPAに掲載された資料を確認すること (60分程度)			森永 雄 金谷 さとみ	
2	地域理学療法学ガイドラインと住環境、まちづくり 【反転授業、クラス合同】								森永 雄 金谷 さとみ	
3	現場体験談 1 地域就労者の労働災害と健康増進 【クラス合同】								坂上 尚穂 金谷 さとみ 森永 雄	
4	現場体験談 2 地域スポーツ活動の支援【クラス合同】								佐々木 広人 金谷 さとみ 森永 雄	
5	現場体験談 3 地域・小児・理学療法士 【ICTを活用した双方向型授業、クラス合同】								小島 賢司 森永 雄 金谷 さとみ	
6	学生による介護予防教室の集団測定 【フィールド学習、クラス合同】								森永 雄 金谷 さとみ	
7	学生による介護予防教室の解析 【フィールド学習、クラス合同】								森永 雄 金谷 さとみ	
8	現場体験談 4 地域性に基づく理学療法と取り組み 【ICTを活用した双方向型授業、クラス合同】								舘石 安由 森永 雄	
9	現場体験談 5 地域高齢者介護予防・健康増進・災害 【クラス合同】								金谷 さとみ	
10	現場体験談 6 国際支援（青年海外協力隊） 【ICTを活用した双方向型授業、クラス合同】								市村 駿介 森永 雄	
11	現場体験談 7 訪問リハと理学療法士【クラス合同】								荒牧 隼浩 金谷 さとみ	
12	学生による介護予防教室の多面的プログラムの実践 【フィールド学習、グループワーク】								森永 雄 金谷 さとみ	
13	発表準備 【ディスカッション、グループワーク、クラス合同】					発表の準備を行うこと (予習復習あわせて240分程度)			森永 雄 金谷 さとみ	
14	予選発表（校内発表） 【学生によるプレゼンテーション】								森永 雄 金谷 さとみ	
15	本選発表（外部聴衆あり） 【学生によるプレゼンテーション、クラス合同】								森永 雄 金谷 さとみ	
教科書	UNIPAに掲載された資料確認									
参考文献	UNIPAに掲載された資料確認									
備考	【特性】AB合同授業(1-11回、13回、15回)、AB別 2 クラス(12回、14回)、体験談における非常勤講師は遠隔講義(Zoom利用)予定、ICT利活用教育 (UNIPA、Google formなど)、AL (グループワーク、発表、ディスカッション、ディベートなど) 【評価】「授業内課題（レポート①）」は、3-5回授業内容を対象とし、独自のルーブリックを用いて採点を行う。学生がUNIPAの科目コース内に指定した提出先Boxに提出する。後日、提出先Boxにあるフィードバック機能を用いて、ワンポイントアドバイスの機会を設ける。「授業内課題（レポート②）」は、13-15回授業内容を対象とし、上記同様に取り扱う。「受講態度」は、出席数と現場体験談受講後のリフレクション数と質を指標とする。 【備考】※1…地域課題は、協力の得られた仙台市太白区中央市民センターと同センター企画に参加した地域住民の意見を参考にした。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

森永雄：地域在住高齢者を対象とした臨床経験・研究あり（フレイル、サルコペニア、生活活動量など）。また、PT協会のフレイル対策推進マネジャー、介護予防推進・地域ケア会議推進リーダーの認定あり。この経験を基に、講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング RO-2-CBO-03				
		●	●	●	●					
科目名	保健医療福祉連携論				単位 認定者	須藤 あゆみ		評 価 の 方 法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
	O T	必修	3 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。 本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。									
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。									
学修者への 期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法師免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	多職種連携とは				配付資料の復習をすること。（30分程度）				齋藤 佑樹	
2	他職種の専門性を知る[1]言語聴覚士				授業の内容をまとめる。（30分程度）				櫻庭ゆかり 齋藤 佑樹 須藤あゆみ	
3	他職種の専門性を知る[2]歯科衛生士				授業の内容をまとめる。（30分程度）				伊藤 恵美 齋藤 佑樹 須藤あゆみ	
4	地域ケア会議の役割について				授業の内容をまとめる。（30分程度）				齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ 戸田 祐子 熊谷竜太 高橋 慧	
5	他職種の専門性を知る[3]看護師				授業の内容をまとめる。（30分程度）				真溪 淳子 齋藤 佑樹 須藤あゆみ	
6	医療と教育の連携について				授業の内容をまとめる。（30分程度）				齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ 戸田 祐子 熊谷竜太 高橋 慧	
7	他職種の専門性を知る[4]栄養士				授業の内容をまとめる。（30分程度）				後藤 未希 齋藤 佑樹 須藤あゆみ	
8	連携する際の工夫を考える[1]グループワーク				発表資料の作成準備をする。（30分程度）				齋藤 佑樹 外里 富佐江 酒井 弘美 須藤 あゆみ 戸田 祐子 熊谷竜太 高橋 慧	
9	連携する際の工夫を考える[2]グループワーク・発表準備									
10	連携する際の工夫を考える[3]発表									
11	事例検討 [1] 事例提示				発表資料の作成準備をする。（30分程度）					
12	事例検討 [2] グループワーク									
13	事例検討 [3] 発表準備 グループワーク									
14	事例検討 [4] 発表1									
15	事例検討 [5] 発表2									
教科書	配付資料									
参考文献	『信念対立説明アプローチ入門―チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』京極真、中央法規									
備考	P T・O T 合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、連携の重要性や要点について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-3-SPS-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	専門支持科目特別演習				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。									
到達目標	1. 解剖・生理・運動学に関して知識を整理し、理解を深める。 2. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。 3. 臨床医学の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。 4. 専門基礎分野における国家試験の問題を解くことができる。									
学修者への期待等	1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 授業後、当該分野の復習を必ず行い、授業の終わったその日のうちに学修を行うこと。 3. 授業後、当該分野の国家試験問題を解き、学修を進めること。 4. 授業で理解できなかったところは、自分で調べ、解決しなければ質問するなど、絶対そのままにしないこと。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	解剖学総論				事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(60分程度)				大和田 宏美	
2	運動機能学1：上肢								小松 佳路	
3	運動機能学2：下肢								小松 佳路	
4	運動機能学3：体幹・顔面								小松 佳路	
5	運動機能学4：姿勢・歩行								小松 佳路	
6	解剖生理学1：呼吸器系								荒牧 隼浩	
7	解剖生理学2：循環器系								伊藤 大亮	
8	生理学1：神経、脳、脊髄								小松 佳路	
9	生理学2：体性感覚、運動、反射								小松 佳路	
10	解剖生理学3：腎臓・泌尿器系								伊藤 大亮	
11	解剖生理学4：消化器系								伊藤 大亮	
12	生理学3：特殊感覚、自律神経								小松 佳路	
13	生理学4：細胞、内臓								小松 佳路	
14	整形外科学1：整形外科一般								小松 佳路	
15	整形外科学2：整形外科骨折								小松 佳路	

回	授業計画	準備学修	担当
16	神経内科学1 脳血管障害、高次脳機能障害	事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。（60分程度）	平山 和美
17	神経内科学2 末梢神経障害、筋疾患、変性疾患他		平山 和美
18	整形外科学3：変形性関節症		小松 佳路
19	内科学2：循環器系疾患		伊藤 大亮
20	内科学3：腎臓・泌尿器・消化器系疾患		伊藤 大亮
21	内科学1：呼吸器疾患		荒牧 隼浩
22	病理学1：感染、炎症、腫瘍		熊谷 竜太
23	病理学2：病理所見、病因		熊谷 竜太
24	人間発達学		外里 富佐江
25	臨床心理学1 防衛機制、学習理論		熊谷 竜太
26	リハビリテーション医学（臨床リハ医学）		佐直 信彦
27	精神医学1 精神症状		須藤 あゆみ
28	精神医学2 統合失調症他		須藤 あゆみ
29	臨床心理学2 心理検査・心理療法		熊谷 竜太
30	精神医学3 認知症	須藤 あゆみ	
教科書	『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第3版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編改訂第3版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『クエスチョン・バンク 理学療法士国家試験問題解説 2025 共通問題』医療情報科学研究所 編 メディックメディア 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』坂井 建雄 医学書院* *1年次購入済み		
参考文献	『国試の達人PTシリーズ2023年 運動解剖生理学編 第28版』アイペック 『国試の達人PTシリーズ2024年 臨床医学編 第25版』アイペック 後日指定する		
備考	2～5回、16, 17回、22～30回：P T O T 合同授業		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング RP-3-SPS-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	専門展開科目特別演習				単位 認定者	大和田 宏美		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、理学療法学の専門分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。									
到達目標	1. 理学療法専門領域の知識と技術を用いて、理学療法を実践的に展開できるようになる。 2. 専門基礎、臨床医学分野に関して知識と技術を整理し、専門分野における臨床応用ができるようになる。 3. 専門分野の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。 4. 専門分野における国家試験の問題を解くことができる。									
学修者への期待等	1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 授業後、当該分野の復習を必ず行い、授業の終わったその日のうちに学修を行うこと。 3. 授業後、当該分野の国家試験問題を解き、学修を進めること。 4. 授業で理解できなかったところは、自分で調べ、解決しなければ質問するなど、絶対そのままにしないこと。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	障害別理学療法総論					事前に、国試の達人 理学療法編、必修ポイントの障害別PT治療学、基礎PT学各領域の問題を解いておくこと。(60分程度)			大和田 宏美	
2	理学療法評価学1：関節可動域測定の基礎								佐々木 広人	
3	理学療法評価学2：関節可動域測定の実際（実地問題）								佐々木 広人	
4	理学療法評価学3：MMTの基礎								佐々木 広人	
5	理学療法評価学4：MMTの実際（実地問題）								佐々木 広人	
6	理学療法評価学5：疾患別評価法								佐々木 広人	
7	骨関節障害1：上肢の骨関節障害								小松 佳路	
8	骨関節障害2：下肢の骨関節障害								小松 佳路	
9	骨関節障害3：体幹の骨関節障害								小松 佳路	
10	骨関節障害4：RA・骨折								小松 佳路	
11	内部障害学1：呼吸器障害の理学療法								荒牧 隼浩	
12	内部障害学2：呼吸器障害の理学療法								荒牧 隼浩	
13	内部障害学3：循環器障害の理学療法								伊藤 大亮	
14	内部障害学4：循環器障害（心電図の基本）								伊藤 大亮	
15	内部障害学5：循環器障害（不整脈）								伊藤 大亮	

回	授業計画	準備学修	担当
16	内部障害学6：代謝障害の理学療法	事前に、国試の達人 理学療法編、必修ポイントの障害別PT治療学、基礎PT学各領域の問題を解いておくこと。（60分程度）	伊藤 大亮
17	中枢神経障害1（脳卒中）：脳画像		大和田 宏美
18	中枢神経障害2（脳卒中）：片麻痺の理学療法		大和田 宏美
19	中枢神経障害3（脳卒中）：高次脳機能障害		大和田 宏美
20	中枢神経障害4（脊髄損傷）		大和田 宏美
21	義肢装具学1：上肢の装具学		鈴木 裕治
22	中枢神経障害5（神経筋疾患）：PA・SCD・ALS		大和田 宏美
23	中枢神経障害6（神経筋疾患）：MS・GBS・MG		大和田 宏美
24	小児理学療法学1 脳性麻痺 知的障害について		大橋 孝子
25	小児理学療法学2 筋ジストロフィー症 小児整形外科疾患について		大橋 孝子
26	義肢装具学2：下肢の装具学		鈴木 裕治
27	法律・制度・地域理学療法学(介護予防も含む)		大橋 孝子
28	義肢装具学3：義肢学		鈴木 裕治
29	物理療法学1：物理療法の基礎		鈴木 裕治
30	物理療法学2：温熱療法・寒冷療法・電気光線療法	鈴木 裕治	
教科書	『クエスチョン・バンク 理学療法士国家試験問題解説 2025 専門問題』医療情報科学研究所 編 メディックメディア		
参考文献	『国試の達人PTシリーズ2024年 理学療法編 第24版』アイペック 後日指定する		
備考	P T A B 合同授業		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング				
						RO-2-MNO-02				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
			●	●	●					
科目名	作業療法管理学演習				単位 認定者	熊谷 竜太		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	O T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	作業療法管理学の知識をもとに、専門職職業人としての意識を高めるとともに、作業療法教育の現状を知り、今後について考査する。 また、生涯にわたり自己学習を進めるための内省力を養い、自己管理能力の向上を図る。									
到達目標	社会人・職業人として、自分自身のマネジメント、所属組織のマネジメント、チームのマネジメントに必要な知識について学び、要点を説明することができる。									
学修者への期待等	社会人として自己実現を果たすために不可欠な知識を得ることができる科目です。主体的に課題に取り組むことを期待します。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	チームマネジメント①(講義・グループワーク) ～相手の個性を的確に把握する～					UNIPAの配付資料を事前に確認 (30分程度)			熊谷竜太	
2	起業に関するマネジメント①(講義・グループワーク) ～起業とは～								山田裕子	
3	起業に関するマネジメント②(講義・グループワーク) ～起業のための枠組み～								山田裕子	
4	チームマネジメント②(講義・グループワーク) ～チームとしての目標設定～								熊谷竜太	
5	チームマネジメント③(講義・グループワーク) ～チームとしてのコミュニケーション～								熊谷竜太	
6	起業に関するマネジメント③(講義・グループワーク) ～ビジネスプランを考える～								山田裕子	
7	起業に関するマネジメント④(講義・グループワーク) ～まとめ～								山田裕子	
8	組織マネジメント①(講義・グループワーク) ～組織としての成果～								熊谷竜太	
9	組織マネジメント②(講義・グループワーク) ～組織における目標～								熊谷竜太	
10	組織マネジメント③(講義・グループワーク) ～組織におけるコミュニケーション～								熊谷竜太	
教科書	『作業で結ぶマネジメント 作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり』澤田辰徳編、医学書院 * *2年次購入済み									
参考文献	適宜紹介します。									
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

熊谷竜太：宮城県作業療法士会に所属し、部や委員会の主担当理事やリーダーを担ってきた。これまでの経験を活かしながら、セルフ・チーム・組織のマネジメントについて講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング RO-2-TOT-17				
		●	●	●						
科目名	臨床作業療法演習Ⅲ				単位 認定者	須藤 あゆみ		評価 の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	○ T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	臨床実習で経験した事例を取り上げ、問題の分析から治療介入について、各科目で学んだ知識・技術を統合し考える。作業療法の治療理論に基づいた介入を学び、適切な介入の方法を修得することで作業療法を総合的にする。									
到達目標	1. 各領域の主要疾患の評価に必要な知識を用い、評価計画を立案することができるようになる。 2. 各領域の主要疾患において、根拠のある効果的な治療プログラムを立案することができるようになる。 3. 領域、疾患、病期に適切なリスク管理や注意事項を挙げることができるようになる。 4. 適切な技術で評価を実施することができるようになる。									
学修者への期待等	演習であるため、積極的に参加してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	クリニカルリーズニングの概念と流れ				作業療法学概論 P148-150「作業療法における思考過程と態度」を読む。(30分程度)			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
2	身体障害①：障害像				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
3	身体障害②：評価治療の考え方				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
4	身体障害③：評価計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
5	身体障害④：治療計画立案障害像 評価治療の考え方				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
6	身体障害⑤：高齢期障害：障害像				身体障害高齢期の病態を復習しておくこと (30分程度)			高橋 慧 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
7	身体障害⑥：高齢期障害：評価治療の考え方				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
8	身体障害⑦：高齢期障害：評価計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
9	精神障害①：症状と障害				各疾患の回復過程を復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ 酒井 弘美		
10	精神障害②：評価・治療の考え方				各疾患の回復過程を復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ 酒井 弘美		
11	精神障害③：症例の評価計画立案				統合失調症の病態を復習しておくこと (30分程度)			熊谷 竜太 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
12	精神障害④：症例の治療計画立案				前回の復習を行い授業に臨むこと。(30分程度)			熊谷 竜太 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
13	身体障害⑨：回復期の治療の実際				身体障害回復期の病態を復習しておくこと。(30分程度)			高橋 慧 荒井 隆徳 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
14	身体障害⑧：急性期の治療の実際				身体障害急性期の病態を復習しておくこと。(30分程度)			高橋 慧 道又 顕 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
15	精神障害⑤：治療の実際				実際の治療場面をイメージできるように疾患の病態や評価、治療について復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ 安達 健朗 酒井 弘美		
教科書	1・2年次で購入した教科書を使用します。事前に連絡します。									
参考文献	特になし									
備考	課題のフィードバックは授業内に適宜行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、一連の作業療法過程について講義する。 高橋慧：地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング RO-3-SPS-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	専門支持科目特別演習				単位 認定者	齋藤 佑樹		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。									
到達目標	1. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。 2. 臨床医学の知識と技術を修得し、作業療法を実践的に展開できるようになる。									
学修者への期待等	1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 復習は授業の終わったその日のうちに必ず行うこと。 3. 授業で理解できなかったところはそのままにせず、自分でも調べ、疑問は質問すること。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	運動機能学1：上肢				事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(60分程度)				小松 佳路	
2	運動機能学2：下肢								小松 佳路	
3	運動機能学3：体幹・顔面								小松 佳路	
4	運動機能学4：姿勢・歩行								小松 佳路	
5	解剖生理学1：呼吸器系								酒井 弘美	
6	解剖生理学2：循環器系								酒井 弘美	
7	解剖生理学3：腎臓・泌尿器系								酒井 弘美	
8	解剖生理学4：消化器系								酒井 弘美	
9	生理学1：神経、脳、脊髄								酒井 弘美	
10	生理学2：体性感覚								酒井 弘美	
11	生理学3：運動、反射								酒井 弘美	
12	生理学4：特殊感覚、自律神経								酒井 弘美	
13	神経内科学1 脳血管障害、高次脳機能障害								平山 和美	
14	神経内科学2 末梢神経障害、筋疾患、変性疾患 他								平山 和美	
15	生理学5：細胞、内臓								酒井 弘美	

回	授業計画	準備学修	担当
16	内科学1 循環器疾患、代謝性疾患	事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。（60分程度）	酒井 弘美
17	内科学2 呼吸器疾患		酒井 弘美
18	内科学3 消化器疾患 内分泌疾患		高橋 慧
19	内科学4 腎臓・泌尿器疾患		高橋 慧
20	病理学1 感染、炎症、腫瘍		熊谷 竜太
21	病理学2 病理所見、病因		熊谷 竜太
22	人間発達学		外里 富佐江
23	整形外科1 骨折、関節リウマチ、OA		高橋 慧
24	整形外科2 脊柱・脊損、切断 他		齋藤 佑樹
25	臨床心理学1 防衛機制、学習理論		熊谷 竜太
26	リハビリテーション医学（臨床リハ医学）		佐直 信彦
27	精神医学1 精神症状		須藤 あゆみ
28	精神医学2 統合失調症他		須藤 あゆみ
29	臨床心理学2 心理検査・心理療法		熊谷 竜太
30	精神医学3 認知症	須藤 あゆみ	
教科書	『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第2版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編改訂第2版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』坂井 建雄 医学書院* *1年次購入済み		
参考文献	『国試の達人PTシリーズ2023年 運動解剖生理学編 第28版』アイペック 『国試の達人PTシリーズ2024年 臨床医学編 第25版』アイペック 『クエスチョン・バンク 理学療法士国家試験問題解説 2025 共通問題』医療情報科学研究所 編 メディックメディア その他、適宜指定する		
備考	1～4回、13、14回、20～22、25～30回 P T O T 合同授業		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング RO-3-SPS-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	専門展開科目特別演習				単位 認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、作業療法学の専門分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。									
到達目標	作業療法士として、各疾患に対する作業療法の実施に必要な知識・技術が展開できるようになる。									
学修者への期待等	今まで学んだすべての知識、技術を整理・統合するため、予習・復習が必須です。学修計画をきちんと立て、計画性を持って取り組んでください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	作業療法評価学① (ROM、MMT、知覚検査)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子	
2	作業療法評価学② (意識障害、バランス、ADL)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子	
3	作業療法評価学④ (精神障害)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			熊谷 竜太	
4	作業療法評価学⑥ (発達障害)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			外里 富佐江	
5	作業療法評価学③ (高次脳機能)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子	
6	作業療法評価学⑤ (老年期障害)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			高橋 慧	
7	身体障害領域の作業療法① 脳血管障害					脳血管障害の概要を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
8	身体障害領域の作業療法② 高次脳機能障害					脳血管障害の作業療法の章を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
9	精神障害領域の作業療法① 統合失調症 気分障害					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			須藤 あゆみ	
10	基礎医学復習					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			酒井 弘美	
11	高齢期障害領域の作業療法② 認知機能障害					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子	
12	臨床医学復習					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			酒井 弘美	
13	身体障害領域の作業療法④ 整形疾患 (骨折、絞扼性神経障害、末梢神経損傷)					主要な整形疾患の概要を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
14	身体障害領域の作業療法⑤ 整形疾患 (関節リウマチ、熱傷 他)					主要な整形疾患の作業療法の章を復習し、授業に臨むこと。(2時間程度)			齋藤 佑樹	
15	精神障害領域の作業療法② 神経症性障害他					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			須藤 あゆみ	

回	授業計画	準備学修	担当
16	精神障害領域の作業療法③ 摂食障害・パーソナリティ障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
17	精神障害領域の作業療法④ アルコール依存・薬物依存他	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
18	身体障害領域の作業療法③ 神経筋疾患	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	酒井 弘美
19	身体障害領域の作業療法⑥ 呼吸器疾患・循環器疾患	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	齋藤 佑樹
20	身体障害領域の作業療法⑦ 脊髄損傷	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	齋藤 佑樹
21	精神障害領域の作業療法⑤ 精神障害領域における制度	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	熊谷 竜太
22	高齢期障害領域の作業療法① 加齢変化による障害・住宅改修	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	酒井 弘美
23	画像関連	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	齋藤 佑樹
24	高齢期障害領域の作業療法③ 高齢期に関わる制度	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	熊谷 竜太
25	発達障害領域の作業療法① 正常発達、脳性麻痺	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	外里 富佐江
26	発達障害領域の作業療法② その他の主要疾患	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	外里 富佐江
27	義肢装具学	これまで使用した教科書の義肢装具学の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	高橋 慧
28	福祉機器、住宅改修	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	酒井 弘美
29	研究法、関連法規	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	齋藤 佑樹
30	作業療法概論、作業活動、まとめ	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	酒井 弘美
教科書	1・2年次に購入した教科書を使用します。詳細については事前に連絡します。		
参考文献	後日指定する。		
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--